

明治三十五年
四月廿三日印刷
明治三十五年
四月廿三日發行

名士名家の夫人

正價貳拾五錢

著作
所有

著作者 須藤愛司

發行者 岩崎鐵次郎

印刷者 齋藤章達

印刷所 東京印刷株式會社

東京市日本橋區兜町二番地

發行所

東京市神田區鍛冶町
十七番地

大學館

宮崎來城君著

鄭成功

正價參拾五錢 郵稅四錢

鄭成國性爺の名を以て從來釋史小功は日本に深く記憶せられたり、而かも未だ完全なる實傳見ざるをその宮崎來城支那臺灣と遊歴先生嘗て珍奇斬新の材料を有する筆硯を新にし先生謹嚴にして瑰麗の筆を振つて鄭成功一篇を著さる、これ近著中最も苦心の餘り成る子弟が好讀本たるを期せられたり

生田葵山人著

貴族の戀

正價參拾錢 郵稅四錢

生田葵思想豊富にして筆力青山氏年作家中天才の名あり貴族の戀一篇は葵山氏が苦心慘澹の作なり上流社會の戀愛を描き極めて妙齡芳顔の令嬢は描寫心裡を發いて妙殆んど神手の感あり

長田偶得君著 岡落葉君密書

逸事明治六十大臣

正價三十錢 郵稅四錢

人才が無い、明治十八年内閣制度の改まつて以來、大臣の重職に上らせられた方々だけども六十人ある、而も此六十人の大官方は、皆是れ智畧ナボレオンを欺き膽勇のその大豪傑大英雄である、といふその大豪傑大英雄の功徳を頌し奉つて、其萬分の一に報じたいのは山々だが、借越の怖れあるから暫く逸事奇談を拾ふて本書を作ることにした。眞裸其世間にイクラもあるが、眞裸其儘の本書に限る、讀め！讀め！讀んで大英雄大豪傑の眞面目を知れ。

岩崎徂堂君著 岡落葉君密書

中江兆民奇行談

背像筆蹟入 正價廿五錢 郵稅四錢

中江兆民稀世の奇男兒である、居士が天下恐らく知らぬものはあるまい、而し如何なる場合に如何なる奇言を吐いて人を驚かしたか、いかなる境遇に如何なる奇行を演じて世を警めたかは恐らく精しく知つて居る人はあるまい、此書は實に兆民が奇行奇言を蒐めて一冊に居士が一度これを繕げばさながら居士が風采と目のあたり感があるに相違ない。

涵養社編纂

現代 大家 青年の憲法

正價廿五錢 郵税四錢

如何に**成效**す可き乎、これ満都せば、**年**が日夜焦慮する問題なりとす、これが秘訣を知らんと務めて空漠撰む所なく、半途學を廢するの悲運に了るは何ぞや、之を要するに彼等は精神を措て形式を學べばなり、**本書幸に此等の弊を拯うて青年の福音**を得べき乎輯むる所嘉納治五郎、杉浦重剛、大槻文彦、島田三郎、横井時雄、三宅雪嶺、井上哲次郎、大隈重信、志賀重昂、加藤弘之、陸實、松村介石十二大家の青年立志談なり。

涵養社編纂

中 新式勉學要訣

正價廿五錢 郵税四錢

學を務むるにその法を得ずむば徒に勞多くして功少なからん、當に功少なきのみならず**貴重なる時間と莫大なる金錢とを散じて得る所病**魔に非ざんば失敗のみ學を務むる亦恐る可きかな本書は題名の示す如く、學を務むる要訣を説きたるもの加ふに新式を以てす、かの腐儒者流か陳套の語とは同日の談に非ず、文字平易なれば中學生には**好參考書**たるを得べし。

早田玄洞君著

李鴻章

正價 廿五錢 郵税 四錢

東洋の風雲はこの一巨人の手感ありき、これ虞翁比公と相並んで世界の**三大英傑**と稱せられし所以乎。而して彼れ溢然として逝くに當り一の記述なきは抑も英雄を悼惜するの道ならんや、玄洞君此に於て**少年時代**よりその終焉に到る迄の經歷**逸話奇聞**悉く輯めて行動を叙し、**東洋史**の一部を補ふに足る

原田東風庵著

木賃宿

正價 廿五錢 郵税 四錢

社會の暗面を知らんと欲せば研究す**下層の生活**を探らんと最も適切にして複雑なる木賃宿を觀察するを便とす木賃宿の活寫はよく**社會の罪惡**亂調病源を指摘して餘蘊なからに非ず**苦心慘憺の處**唯その著者**苦心慘憺の處**奇警緻密なる觀察に止まらずして活寫の筆法に存す又**一部の好小説**

(奥附の三)

(奥附の二)

木村鷹太郎君著

バイロン 文界之大魔王

木村鷹太郎君、バイロンに關して多年の研究の結果此に本書を公にせられたり、
寔に寂寞たる文壇に一道の活氣を興へたるものと言ふ可し、バイロン
が幼時より終焉に到るの生涯を遂ふて精細彼れが性格彼れが
戀愛彼れが文學彼れが思想悉く叙説し評臨し眼光炬の如く
筆勢火の如し狂熱詩人が面貌活躍して、吾人が面前に髣髴たらん
とす。

(奥附の四)

(再版)

寫眞版 數葉入
宮崎來城君著
乞食旅行

腹に萬巻の書を貯へな
がら旅行のしたさに
缺椀と片手に
乞食の仲
間入して
と經廻實歴談
くつた三日した止められ
ぬと乞食の境
いふはそんなもの
來城氏が無錢旅行を讀
はんその趣味の
多しことを知て居
て本館が喋々せざら
うといふ氣になるであら

寫眞版 數葉入
巖谷漣山人序 田生葵山人著
少年小説 英雄

生田葵山人が獨特
少年小説に有する
の麗筆は既に
文壇の公評た
り、本書は山人が苦心
經營の著作數篇を蒐録
したるものに於て篇中
の主人公の無邪氣
が或は勇氣ある
てに勇氣活潑なる
何に少年諸君を心酔せ
しむるや否や試に一誦
り玉へ
その好伴侶たる
東京神田鍛冶町
十七番地
大學館

(奥附の五)

正價廿五錢
郵稅四錢

正價廿五錢
郵稅四錢

寫眞版
數葉挿入

矢野滄浪君著 食客

正價廿五錢
郵稅四錢

胸間燦爛たる勳章を掲げ、
駟馬に鞭ちて嘉閑に上る
幾多英傑の
身を究むれば一貧
生に過るなり、奴婢に
居を同うして薪水の勞に
服せし、唯それ
堅忍不拔、勤強力
その成效を致したる所以
なりとす本書著者か
實踐したる所以
く、趣味饒多の筆を
以てす、一讀解願の
概あり、再讀腕
あり、三讀案を拍て
憤呼ふの快事あり、

豪傑叢談第九篇

宮崎來城君著 續多情の豪傑

郵稅四錢

正價廿五錢

傀奇にして而かも優
艶の筆致に富める宮
崎來城君、屢に多情
の豪傑一篇を出たし
て大に世の讀書界を
驚かす、此書は江湖
の聲に促かされて更
に其洩れたる戦國の
猛將勇士が情事を寫
せるもの、劍戟と紅
粉、甲冑と彩衣、如何
に其の光景の人をし
て恍惚たらしむるよ
炯眼と柳眉廣額と
花顔、如何に其の光
景の人をして轉た恍
惚たらしむるよ

寫眞版
數葉挿入

少年小説 進撃隊

正價廿五錢
郵稅四錢

人葵山「少英雄」を著
滿天下の少年
藉し與奮「進撃隊」
を讀むの少年必ずや
哉三呼あらずんば已
まざる可し、日出國
漸く舊習の弊を
の少年をせしめん
とす然れば則ち本書の功は
管に一讀消閑の具たるに留
まらず、ま
た以て
の一端を補ふに足るものあ
るなり

東京神田鍛冶町
十七番地
大學館

(奥附の六)

豪傑叢談第十篇
西山筑濱君著

豪傑と奥方

正價廿五錢
郵稅四錢

豪傑と奥方、是好題目にあらざる
れ評論史傳の好題目を待たざる
の半面は明にそが夫人の研究に
可からず、著者は此の好題目を捉へて、
精練の文、熱情の筆に依り、或は一路脈
々たる春風、俊髦と佳人とを描
に對する秋、老英雄と老名
は蕭條たる秋、老英雄と老名
媛の影に向ふ、老英雄と老名
とを描き、或は論じ或は叙説
し、滔々として草語つきず、
讀小説を見るの感あり、再讀、處世の
哲書を見るの感あり。

東京神田鍛冶町
十七番地
大學館

(奥附の七)

著 君 堂 徂 崎 岩

正 廿五 錢 價

兄弟の士名

郵 稅 四 錢

一世に快事多し、然
 第一腹一生の兄
 弟が共に蘊奥の學殖を
 極めて相競ひ共々赫
 々たる名聲を博して並
 稱せらるるの快事に及
 ぶもの無けし現今社
 會に活動せる活社
 人物の兄弟が逸話傳
 記を描きたるも
 して、立志の興
 奮劑たる事疑ふ可
 家庭必須の書
 なりといふ可し

東京神田鍛冶町
十七番地
大學館

押川春浪君著岡落葉密畫

正 價 廿 五 錢

世界奇怪譚第一編

奇人の旅行

郵 稅 四 錢

「奇人の旅行」は世界怪
 奇譚の第一編として現
 はれたり、旅行
 の趣味は已に
 何人も解する所、奇人
 の旅行に就ては何人も
 未だ想ひ當ら
 ざる所なり、彼
 の一九か「膝栗
 毛」よく人の頤を解
 くと雖も本書とこれを
 比較せばその趣味
 その滑稽その感味
 興、九牛の一毛に過
 きざるべし。

押川春浪君著岡落葉密畫

正 價 廿 五 錢

世界奇怪譚第二編

怪人奇談

郵 稅 四 錢

表題 已に 人心を驚
 倒す 本書の記事推
 彼に 我に非ず彼が
 非に 疑團百出
 煩悶 痛苦、已にして我
 に 我あり彼に彼あり
 春風 一度來りて堅氷融
 く 骨子の概なり、其他
 奇俠 士戰
 場の花 如何に讀
 食を 忘れしむるが圓
 加ふるに 著者、を以てし
 熟の 筆たれば、
 婦女 童幼の亦そ
 味を 解するに難からず
 神田 鍛冶 町 十七番地
 大學 館

(奥附の九)

須藤靄山君著岡落葉密畫

正 廿五 錢 價

名士名家の夫人

郵 稅 四 錢

區々たる一婦人、纖弱な
 る女子遂に天下無用の長
 物たる乎、事に表裏あり、
 陽あり、國の盛
 衰、家の興亡
 觀し來れ 巾幗の
 は由來 侮る可からざ
 勢力 稱名
 名士の 稱名
 家の 譽、嗚呼豈亦
 子の功に歸す可けんや暴
 風松柏を倒さんとしてこ
 れを支ふるもの何ぞ松柏
 に其身を託する葛蘿なら
 ずや然 婦人の功
 亦冥々に附す可からざる
 なり

(奥附の八)

名流叢談

宮崎來城君著

第一編 苦學談

正價 廿五錢
郵税四錢

本書は名流叢談の第一編として顯る來城君**健筆**と**富想**は天下已にこれが**苦學十年**歴を知り、未だその**無錢旅行**「乞食旅行」は君が豪放不羈の一端を記すも**刻苦勉勵**の正に本書に依てよくこれを説かん、苟くも學に志すもの文に達せんとするもの必ず一書を購うて可なり。

著 野 紫 陽 君

文 學 奇 瑞 談

正價 廿五錢

郵税 四錢

天地を動かし鬼神を泣かしむ、人情を和らげ、狐狸を、**和歌俳句**の力また侮る可か、**眞句**ならず本書は歴史上に於ける**和歌俳句**が**不思議**に於ける**不**思儀なる**感應**を來た**逸語珍**したる**聞**を蒐録したる者、**好史料**とせば、

豪傑叢談

全 部 拾 貳 冊

正價 拾五錢
郵税 貳錢

第一編 宮崎來城君著 **多情の豪傑**

第二編 宮崎來城君著 **臨終の豪傑**

第三編 宮崎來城君著 **少時の豪傑**

第四編 岩井松風軒著 **遺訓の豪傑**

第五編 宮崎來城君著 **雅量の豪傑**

第六編 西山筑波君著 **交際**

目次左の如し
○第一編 多情の豪傑
○第二編 臨終の豪傑
○第三編 少時の豪傑
○第四編 遺訓の豪傑
○第五編 雅量の豪傑
○第六編 交際

豪傑の氣概は臨終の間に於てこれを見る、來城君獨擅の雄筆を揮つて無敵の古豪傑が臨終を描く一瞥、夫も起つ可く鬼神も泣くべし。臨終は三寸にして人を呑むの勢あり、豪傑の氣概は臨終の時に於てこれを見る、來城君獨擅の雄筆を揮つて無敵の古豪傑が臨終を描く一瞥、夫も起つ可く鬼神も泣くべし。

豪傑の氣概は臨終の間に於てこれを見る、來城君獨擅の雄筆を揮つて無敵の古豪傑が臨終を描く一瞥、夫も起つ可く鬼神も泣くべし。

豪傑の氣概は臨終の間に於てこれを見る、來城君獨擅の雄筆を揮つて無敵の古豪傑が臨終を描く一瞥、夫も起つ可く鬼神も泣くべし。

豪傑叢談

正價一
冊金貳
拾五錢
郵稅四

全 部 拾 貳 冊

洋裝
美本

- 第七編 岩井松風軒著 **豪傑の信仰**
- 第八編 西山筑濱君著 **豪傑の修養**
- 第九編 宮崎來城君著 **續多情の豪傑**
- 第十編 西山筑濱君著 **豪傑と奥方**
- 第十一編 西山筑濱君著 **豪傑の嗜好**
- 第十二編 西山筑濱君著 **豪傑の權謀**

(奥附の十二)

英雄豪傑の壯業偉蹟は實に渠れが信仰の産物なり、神か、佛か、人か、物か、道か、理か物か、是等は其の一の或ものを崇拜して志を成したるものなり本書詳に之を論ふ

大事業の下には大なる準備あり偉人の業には大なる修養あり修養は活動の第一義なるの語を知る者須らく此書に就て如何に英雄豪傑かその素養に力むるに困苦勉勵せしかを見よ

遂に、多情の豪傑一篇を著して滿天下の耳目下驚倒したる若者更に其洩れたる戦國の勇將猛士が情事に寫す瑰奇優麗の筆致は説くを用ひず讀む者恍惚として自失せしんは幸のみ

豪傑を知らんとするには先づ夫人の研究を要す、女子が男子に及す才力等大なるものあればなり、此書或は叙説し或は評論し後と佳人双々點綴する處一部小説を讀むの感あり

優勝劣敗は世の常數なり、兵を用ふるに正道あり極道あり要は敵に勝たんとするに因す豪傑の士術策を用ひ權謀を行ふ亦已むなきに出づ巧拙得失はその人如何に在るのみ

兵馬控製として喰食易からざるが如し、而かも此中後に自滿閉日月あり、これ蓋し豪傑偉人たるか所以なり、陣中夜深くして時を賦す何ぞ風流なるや死眼前に在りて秘愛の旨を弄す何ぞ優美なるや

早田立洞君著

膽力修行

正價廿五錢 郵稅四錢

心は小なる可し、**膽は大なる**
可し智一世に秀で學凡俗を抜くと雖も其
膽力尪弱ならんには事業の成効
は殆んど覺束なかる可し、今日漸く**文**
弱の弊青年社會を益毒せんとする
に當り、本書を公にする所以のもの敢て
喋々を要せざる可し。

巖谷健山人序 小島冲舟君畫

黒田湖山人著

日本武將第一 宮本武藏

お伽嘶編

日本武將第二 岩見重太郎

お伽嘶編

強いもの豪いものにならんとす
る幼年諸君は是非一讀すべき本
です、文章は勇ましく面白しらく
挿畫は綺麗で澤山あります！

(奥附の十三)

宮崎來城君著

國色史叢 第壹編 虞美人

正價廿五錢 郵稅四錢

宮崎來城君著

國色史叢 第貳編 西施

正價廿五錢 郵稅四錢

宮崎來城君著

名流叢談 第壹編 苦學談

正價廿五錢 郵稅四錢

押川春浪君著岡落葉君密書

世界怪談 第一編 奇人の旅行

正價廿五錢 郵稅四錢

押川春浪君岡落葉君密書

世界怪談 第二編 怪人奇談

正價廿五錢 郵稅四錢

(奥附の十四)

楚の項羽の虞兮の歌を謡うて死別の血涙湧花たりし虞美人が項羽本紀に一點の潤飾を與へたるもの、而も此の麗筆果して如何の消息を描破し來る。

國亡ひて山河あり英雄の遺恨長へに滅びず聲色の禍害それ大なる哉來城氏獨得の才筆は實に風霜を挾み句々血涙を含み。

古人今人を問はず總て人の總體となり世の摸範となりは孰れも潛心深想刻苦勉勵の結果と外ならず學に志し業を務むるもの常にその苦學の狀を知悉して忘るなくんば亦自ら成効の道に達す可きなり。

夫れ旅行の趣味は千變萬化するに在り、これに配するに奇人を以てす以て本書が如何に人の意表に出づる記事を以て満たされたるかを如何に彼の衣表に出づる可し。奇も本書に比すれば九牛の一毛だにも値せざる可し。

表題已に人心を驚駭せしむ本書の記述推知するに足る本書は實に人外狂、奇俠士、戰場の花の三篇を以て成る著者が圓熟流暢の筆致は婦女童幼も其趣味を解するに難からず。

文學士白河鯉洋君序 宮崎來城君著

楊貴妃

第五版 正價廿參錢 郵稅四錢

帝國大學教授内藤耻史先生序 黒河内與四郎君著

靜御前

第四版 正價參拾錢 郵稅四錢

文學博士三宅雪嶺先生序 岩井松風軒君著

小野小町

第三版 正價廿五錢 郵稅四錢

松村介石君序 光井深君著

學生自活法

附錄 東京諸學校案内 同人學試験問題

再 正價拾五錢 郵稅四錢

文學士梶川鳥城君序 林稻洲君著

理想の良人

正價拾七錢 郵稅貳錢

(奥附の十五)

此書は未だ結婚の男女を見持てる父母兄弟の一讀を要す。未だ妻を迎へざる男子の爲めに未だ嫁を娶はざる女子の爲めに親切なる勸告と撰擧法を説く此書を讀みたるものは妻を離別するの不幸なく婚縁せらるる悲哀に際合せざるべし。要するに此書は未だ結婚の處女に向て無双の教訓書なり。既婚の婦人に向て絶好の座銘なり。

帝國大學國史科に於て、鎌倉時代國史を専攻せし著者が數十の奇書珍本を材料とし該博なる學識と流麗なる筆致に依りて靜御前が幼時より其最期に至る迄の如き最も正確に物事を極むるもの殊に其後經の關係は同一の訣に在らざるなり。極美の女流として、非凡の淑仙としての小野小町が九十二年間の生涯の榮枯盛衰を叙述したるもの材料は正しく正確な文章は流麗暢達、從來不可思議の裡に疑感を生ぜしむる小町の事蹟は此書に依りて始めて明晰に解決せられたり。都下何十萬の學生の中能く其素志を貫くもの幾人かある多くは悪魔の爲めに病寃の爲めに、半途にして郷里に歸るもの失敗するもの隨處にあらざるやこれ其罪なる都下の事情に暗き故なり。獨立腳步の勇なきが故なり。光井深君此書を讀み此書あり出京の學生を導く事親切丁寧な此書にこれ學海の羅針盤なりと言ふべし。

博言博士イーストレーキ君著

英作文添削詳解

再 正價廿參錢
版 郵稅貳錢

「イ」氏門生の英作文數多を撰擇して、字々句々に精密の添削を加へ、其全文には全體の評論を下し、以て英作文練習の方針を示し、邦文を以て添削評論の理由を詳説したる英學界未曾有の珍書なり。

博言博士イーストレーキ君著

英和 日用單話自在

第三 正價參拾錢
版 郵稅四錢

英米日用の慣用語句一千數百を集めて之を二十種に類別し同氏自ら正確の發音を施し加ふるに末尾に單語數百をも類別に附しあれば初學者は勿論特に中學

菅野徳助君著

自叙傳 詳解

再 正價參拾錢
版 郵稅四錢

國民英學會講師として「實用英語」記者として英文の註釋を以て芳名噴々たる菅野氏が其精進なる頭腦により詳密の註解を下せしものなれば坊間流布の無難の書と其の選を異にするは勿論實に中學生必携の

文學士宮本正貫君序 虎城山人編

作文 必携助字用法詳解

四 正價拾五錢
版 郵稅貳錢

也、矣、焉、乎、哉、耶、耳、爾、已、殆、漫、蓋、夫、抑、即、乃、爾、即、便、獨、尙、仍、等、の助字數百を類集し、各字の意義、用法、異同等皆實例を擧て詳説せり。

侯爵西園寺公望君題字 岡鹿門君序 財閥榮君編

作文 必携熟語成句詳解

四 正價廿五錢
版 郵稅四錢

故字熟語數千を集めて、之を精密の意義、文字の出處、故事來歴を詳説して、之を一いろは別に區別し、尙ほ索引に便なる爲め種類目錄をも付しあれば引用に便にして、文筆に従事せるもの座右必須の要典なり。

文學士宮本正貫君序 虎城山人編

漢文 和文漢譯秘訣

正價拾五錢
郵稅貳錢

和語を漢語の語勢に變更する練習法なり復文十數例を擧げて漢字、虚字、助字の用法及語句の轉例配置を一字一字詳説し又譯文の異同を識別し譯文の運用變代を會得せしむる爲め同一文を數種に漢譯したる名家の和文漢譯例を示し譯文の方法秘訣を詳説せり。

法學士 加藤正雄君序 南海道人編 (挿畫二拾二個)

書法 秘訣習字速成圖解

再 正價拾五錢
版 郵稅四錢

本書は永字八法、草字筆法、一文字五形修練術、忍返し筆法、執筆法等を總て圖を以て詳説し、其他執筆運筆、姿勢、習字、四條、習情、文學之體、筆勢、筆拍子、去秋、黑色生字、死字、病字等の秘訣、魏太祖、王羲之、晉成帝、柳公權、東坡等の書法極意より書體の種類、筆道の用具に到るまで詳細不漏。

涵養社編纂

現代 青年の憲法

正價廿五錢
郵稅四錢

如何にせば成効す可き乎、滿都幾萬の學生これが秘訣を知らんと欲して日夜焦慮し苦悶し而も其要を得ざるは如何これ徒に形式を學んで精神を忘るればなり本書幸に此等の弊を拯うて青年の福音たるを得べきか、曠る所現代大家十二人の青年に關しての談柄なり。

涵養社編纂

中學 新式勉學要訣

正價廿五錢
郵稅四錢

勉學の法を得ざれば勞多くして功少なきのみならず貴重なる時間と莫大なる金錢とを散するに過ぎず、本書は實に此等の缺を補はんために出でたるもの、加ふるに新式を以てしたればかの腐儒者流か陳腐の語とは同一の談に非ざるなり。

今世少年年

此外、從來の如く、盛に物、陸海軍の談話、青年詞藻、蘭輝に光
 放しめ、考へ、物、繪探し、お笑草欄、入す、智慧
 ふね、荷らさず、臍すは、衛生の爲、買ふべし、
 るも

要目

英雄の傳記	珍事珍聞
冒險談	弟妹領分
新體詩	遊戲
内外旅行記	諸國奇談
當代立志談	一口英語
人物立志談	

定價

毎月一回五日發行、一冊拾
 錢〇六冊五拾七錢〇拾二冊
 壹圓八錢〇外に郵税一冊に
 付壹錢づつ郵券代用は凡て
 一割増(壹錢切手に限る)爲
 替拂込は「神田多町局」爲替
 受取人は「東京市神田區鍛
 冶町十七番地 大學館」

東洋少年雜「今世少年」は今回、**刷新**なる趣
 記事に、**大刷新**を施す事とせ、**豊**
 富其體**完備**、二千五百年來**最傑出**の物
 天下の**公論**後れ、**後悔し給ふな**!!

お伽譚 名家談片

(奥附の二十五)

發行所 東京市神田區鍛冶町七十番地 大學館

緒方流水君序 石橋玄潮君著

新體詩指南

石橋玄潮君編

正價廿五錢
郵税四錢

新體詩の性質を明にし、其作法を詳説し、附するに
 之が模範たる作例と、之を組織すべき資料たる類語
 を蒐集したるもの、新體詩自修の指南車は本書を措
 て何れにか之を求めん

(奥附の二十四)

韻花天月地

文學士栗田木岡君序 渡邊幾石君編

正價廿五錢
郵税四錢

本書收むる所は當時有名の新體詩人の作にして其萃
 を抜き其精を選びて之を集む、其數七十有餘題當に
 是れ四時花鳥風月の友天地の有情を教ふるもの、即
 ち之なり

美文資料 美辭麗句

早田玄洞君著

再版 正價廿錢
郵税四錢

本書は部門を季候(春、夏、秋、冬)地理、天文、人品、品
 性、人情及人事等に分ち更に百有餘の細目に分ち以
 て索引の便を計れり蓋し作文の好資料にして苟しく
 も文章を弄するの士が座右の友として裨益少なから
 ざるを信す

膽力修行

國府犀東君序 香川怪庵君述

正價廿五錢
郵税四錢

男兒志を成す膽大なるを要す然らざれば孔明の智略
 あるも遂に失敗に終る可し然らば膽力の養成は如何
 本詳にこれを説く

文士政客風聞錄

正價拾五錢
郵税貳錢

方今其名喧々たる政治家、文藝が奇話
 珍聞を蒐めたるもの、滑稽あり、洒落あり、
 憤り、豪放あり、奇矯あり、風流あり、憤
 慨あり、面目躍如として紙上に活躍す、

駿臺隱士著

最近記憶術

學生坐右叢書
定價二十五錢
郵税四錢

記憶力と理解力とは修學の
二大原素なり、而かも記憶力は年齢の増
加と**反比例**の傾向とを有す、
畢竟これ記憶術の**修練缺乏**の結
果なりとす、然れば則ち本書を繕きて、熟
讀玩味せんには失念忘却等の事より起る
計らる可からざる**損害を免**ること
を得べし、行文平易にして極めて理論を
避け**實用に適**せんことを務めたり。

駿臺隱士著

學生讀書法

學生坐右叢書
定價二十五錢
郵税四錢

讀書の法其の宜ろしきを得ず
んば**千卷萬書畢竟**する
に何の用ぞ従て本來此に關す
るの著書頗る多きが如し然れ
ども**親切丁寧理論と實
際を兼併して學生の好伴
侶**たるを期したるもの豈に本
書の如きものあらんや。

8/1/34

早田玄洞君著

臨終の一日

正價
廿五錢
郵税
四錢

本書は**臨終の際に於ける英
雄豪傑 聖人君子 美人烈婦**
高僧等が言行を描きたるもの、**平常
の覺悟**は臨終の際の言行によつて
解決せらるもの也、本書を讀むもの必ず
や**豁然大悟**する所あるべし一部
の小傳と見做すは本書を知るものに非ず
蓋し**精神修養上**必須の好著た
り。

原田東風君著

貧民窟

正價
廿五錢
郵税
四錢

勞働問題、社會問題、風俗宗教
等に研究しつゝあるの人士は先づ第一に
貧民窟が現狀も精通せざる可から
ず而して從來空論の喧々たるに比してこ
れが**状態生活**を寫したるの書甚
少し、これを概して著はされしは本書也
行文**極めて趣味**あるを以て感
興の中に巨細知悉すを得

岩崎但堂君著 岡落彙畫

肖像 田中正造奇行談

正價廿五錢 郵稅四錢

明治の佐倉宗五郎

誰が續毒問題に一身を犠牲に供して狂奔しつゝある田中正造翁其人なり翁は中井

弘中江兆民と共に 明治の三奇

人にして翁が行勳は實に 墮落社

會に在つては巍然として人の意表に出

づるもの多し而かも皆 熱血の餘

に出でたるもの翁が一生涯の逸事奇談を
編んで世人に紹介せんとするもの豈に徒
事と云ふべけんや

(第三十)

與謝野鐵幹君著

新派和歌の葉

正價廿五錢 郵稅四錢

鐵幹君が初學者の爲め、親切

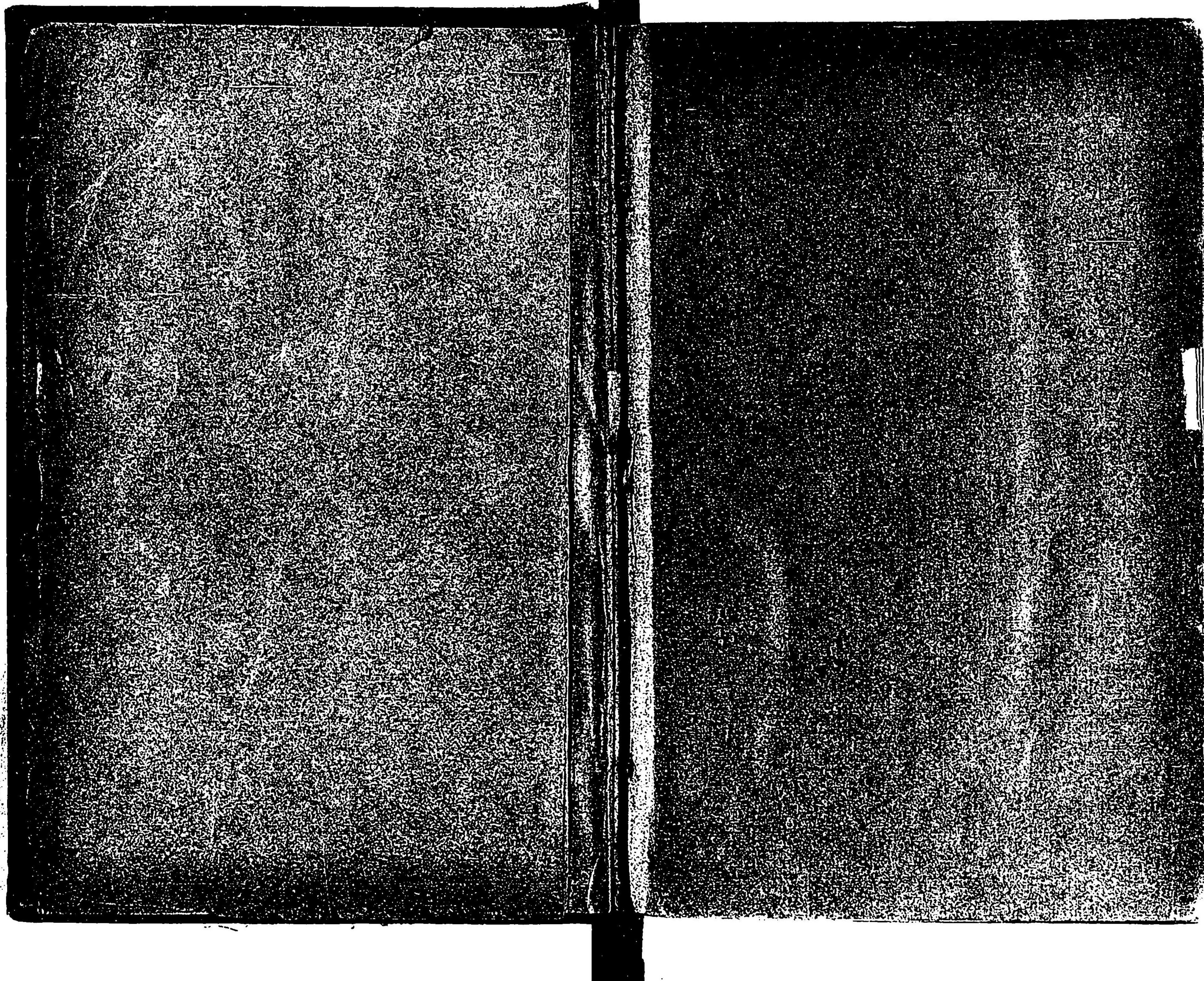
叮嚀を旨として、註釋、評論、

説話せられたるすべて 新派

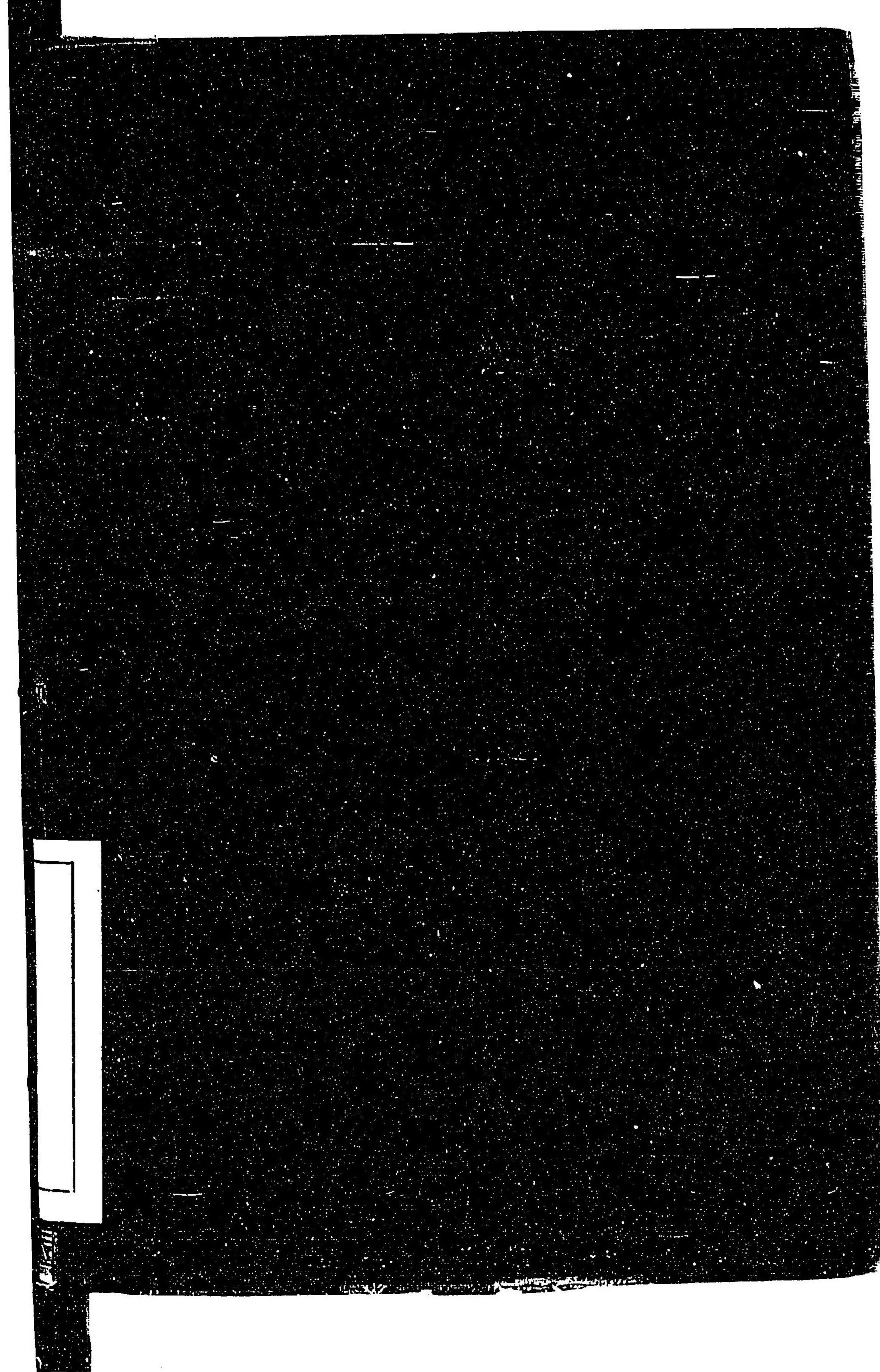
和歌に關する著作を蒐録し

たるもの、實に 歌壇の珍

稱す可し



82
404



82
/
404

005106-000-2

82-404

名士名家の夫人

須藤 愛司/著

M35

ACE-1908

